

九州歯科大学歯学部口腔保健学科の卒業コンピテンシー

1. 歯科医療人としての素養

【到達目標】

九州歯科大学歯学部口腔保健学科学生は、卒業時に豊かな教養、人間性、学識を有し、全人的保健・医療・福祉を提供する基礎的能力を備えている。

【学修成果】

1. 社会人及び医療人として共通に持つべき教養を身につける。
2. 信頼関係を確立するために、コミュニケーションの重要性を理解する。
3. クライアントの立場に立って最善の歯科保健・医療を提供するために必要な医療面接の基本的な態度、知識及び技術を身につける。
4. 歯科衛生士法及び関連法規の基本的な考え方を理解する。
5. 保健、医療、福祉、介護に関連する社会制度、地域医療及び社会環境を理解する。
6. 環境と健康との関わりを理解する。
7. 社会の変化に対応して、歯科衛生士としてのキャリアを継続させる生涯学習者としての基本姿勢を身につける。

【学修内容】

大学における学修技術・態度を修得し、全人的歯科保健医療を提供するための基礎的知識を学ぶ。

【学修方法】

教養系科目の履修を通して、社会科学、人文科学、自然科学、語学などのリベラルアーツ教育を軸に人間形成を目指した教育を展開する。あわせてコミュニケーションに関わる科目を通して、クライアントとの信頼関係を確立するためのコミュニケーション技術に加え、歯科医療に関する社会制度を学修する。

【学修成果の評価方法】

シラバスに記載されている評価方法で評価する。

2. プロフェッショナリズム

【到達目標】

九州歯科大学歯学部口腔保健学科学生は、卒業時に歯科衛生士として必要な倫理観及び責任感を有し、クライアント中心の歯科保健医療を実践するための基礎的能力を備えている。

【学修成果】

1. クライアント本位の姿勢を身に付ける。
2. インフォームドコンセント、インフォームドアセントを理解する。
3. クライアントの権利及び義務を熟知し、その現状と問題点を理解する。
4. 歯科衛生士としての倫理観及び基本的価値観を身につける。

【学修内容】

歯科衛生士としての社会的役割に加え、倫理観及び責任感を学ぶ。

【学修方法】

能動的な学びを通して、クライアント本位の医療について学修する。

【学修成果の評価方法】

シラバスに記載されている評価方法で評価する。

3. 口腔保健学の専門的知識

【到達目標】

九州歯科大学歯学部口腔保健学科学生は、卒業時に歯科衛生士として求められる歯科医学及び歯科衛生学の知識を口腔保健活動において応用する能力を備えている。

【学修成果】

1. 歯科保健・医療及び福祉・介護における安全性への配慮と危機管理を理解する。
2. 健康の概念、健康と社会・環境、予防と健康管理、疫学・保健医療統計を理解する。
3. 生命の分子的基盤、人体の構造と機能、感染と免疫、病因と病態、生体と薬物を理解する。
4. 素材と器械・器具の所要性質、成形法と成形用材料を理解する。
5. 診療の基本、口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患、歯と歯周組織の常態と疾患、ならびにそれらの歯科医療への展開を理解する。
6. 歯科衛生学を理解する。
7. 福祉・介護領域における歯科保健・医療の役割を理解する。

【学修内容】

歯科衛生士として求められる歯科医学及び歯科衛生学に関する知識・技術・態度を学ぶ。

【学修方法】

体系的に設定された基礎系科目・臨床系科目を通して、知識・技術・態度を学修する。

【学修成果の評価方法】

シラバスに記載されている評価方法で評価する。

4. 科学的根拠に基づく口腔保健の実践

【到達目標】

九州歯科大学歯学部口腔保健学科学生は、卒業時に科学的根拠に基づいた口腔保健を実践するための能力を身につけている。

【学修成果】

1. 科学的根拠に基づいた口腔保健の実践についての考え方及び重要性を理解する。
2. 口腔保健の実践に必要な科学的情報を適切に収集・解釈する能力を身につける。
3. 確率論的なものの見方を理解し、確率変数とその分布、統計的推測を理解する。
4. 科学的根拠に基づいた口腔保健活動の成果を適切に評価する態度を身につける。
5. 保健・医療・福祉の研究成果について生涯を通じて学び、新しい知見を提供するリサーチマインドを身につける。
6. リサーチマインドを駆使して、生涯にわたり歯科保健医療の発展に貢献するための基本的態度を身につける

【学修内容】

科学的根拠に基づいた口腔保健活動を実践するために基本的な知識・技術・態度を学ぶ。

【学修方法】

科学的根拠に関する知識習得のための講義、グループディスカッション、演習を通して学修する。

【学修成果の評価方法】

シラバスに記載されている評価方法で評価する。

5. 全ての世代に対する幅広い歯科衛生活動

【到達目標】

九州歯科大学歯学部口腔保健学科学生は、卒業時に全ての世代に対する全身の健康とQOLの向上という視点に立った歯科衛生活動ができる基礎的実践能力を備えている。

【学修成果】

I. 歯科診療の補助

1. 全ての世代に応じた歯科診療補助において必要な知識、技術及び態度を身につける。
2. 歯科診療の内容に応じた患者指導において必要な知識、技術及び態度を身につける。
3. 周術期から回復期・維持期の適切な口腔保健管理に必要な知識、技術及び態度を身につける。
4. 全ての世代に対する歯科保健・医療に必要な薬剤の基本的知識を身につける。

II. 歯科予防処置

1. う蝕予防を安全に行うため、フッ化物塗布において必要な基本的知識、技術及び態度を身につける。
2. 幼若永久歯小窩裂溝部における予防填塞に必要な基本的知識、技術及び態度を身につける。
3. 歯周組織の健康の保持増進のために必要な基本的知識、技術及び態度を身につける。

III. 歯科保健指導

1. 全ての世代に対する歯科保健指導及び食生活指導の知識、技術及び態度を身につける。

IV. 労働衛生管理

1. 産業保健における労働衛生管理を行うために必要な知識を身につける。

【学修内容】

ライフステージに沿った全身の健康とQOLの向上を目的とした歯科衛生活動を学ぶ。

【学修方法】

歯科衛生士3大業務及び労働衛生活動に関する科目を通して、実践的歯科衛生士に求められる知識・技術・態度を学修する。

【学修成果の評価方法】

シラバスに記載されている評価方法で評価する。

6. 多職種連携の実践

【到達目標】

九州歯科大学歯学部口腔保健学科学生は、卒業時に多職種とともに地域の保健・医療・福祉の分野で社会貢献できる基礎的能力が備わっている。

【学修成果】

1. 患者中心のチーム医療ならびに他の医療従事者との連携の重要性を理解する。
2. 歯科診療を適切に行うために、地域医療、病診連携についての知識、技術及び態度を身につける。
3. 保健・福祉・介護分野の専門職と協働するために他職種の役割を理解する。
4. 保健・福祉・介護分野における口腔保健を推進するための連携方法を理解する。

【学修内容】

多職種と連携した歯科医療の実践に必要な知識・技術・態度を学ぶ。

【学修方法】

隣接医学の科目及び臨床実習を通して、多くの医療従事者との連携に必要な知識・技術・態度を学修する。

【学修成果の評価方法】

シラバスに記載されている評価方法で評価する。

7. グローバルマインド**【到達目標】**

九州歯科大学歯学部口腔保健学科学生は、卒業時に国際的な視野に立った歯科衛生活動を行う基礎的能力を備えている。

【学修成果】

1. 英語を用いて口腔保健に関する国際的な情報を収集・読解する能力を身につける。
2. 英語を用いてコミュニケーションをとることができる。

【学修内容】

実践的な外国語教育科目を通して国際的な視野を広げる。

【学修方法】

本学と連携協定を締結している海外の歯科大学・歯学部において講義・実習の見学ならびに国際文化交流を体験し、国際的視野と国際的コミュニケーション能力を学修する。

【学修成果の評価方法】

シラバスに記載されている評価方法で評価する。